

1 教育長あいさつ

開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日、皆様大変ご多用の中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。このたび、公募委員の方を含めまして12名の委員の方に就任をしていただきました。皆様快くお引き受けいただきましたことを心より感謝申し上げます。

本年度は第2期のしまね教育ビジョン21を策定しましてから3年目を迎える年になります。県教育委員会では、このビジョンの基本理念、「島根を愛し 世界を志す 心豊かな人づくり」を目指しまして、さまざまな教育の施策を推進しているところであります。昨年、島根県は地方創生の総合戦略を策定しました。人口減少問題にどう対処していくのか、特に社会減を減らす、社会増減を均衡させるという具体的な目標に向けて県庁全体で取り組もうとしておりますが、その中でも地域を担う人づくり、あるいは将来の島根を支えてくれる人づくり、そういう意味での教育施策への期待は大変強いものがございます。

そういう中にありこの県立高校の在り方について、現在、平成21年度に策定をしました県立高等学校再編成基本計画に基づいて取り組んできております。高校等への進学率が現在99%を超えております。高校に入学する生徒の、例えば能力、適性、あるいは興味、関心、そして進路希望などは様々であります。大変多様な、個性豊かな生徒が入学をしている実態があります。高校教育におきましては多様化への対応と、一方で共通性の確保、これをどう両立するかということに配慮しながら、学校運営を進めているという実態がございます。そういう中で、島根で生まれ育つ子供たちにまずは学ぶ意欲をしっかりと持ってもらいたい、そしてお互いに切磋琢磨するということも、やはり人間の成長にとって大事だと思っています。一人一人の個性や能力を最大限に引き出すことができるような質の高い教育を何とか提供していきたいと、このような考え方で教育の施策を推進しているところでございます。また、先ほども地方創生、総合戦略の話に触れましたが、今後も島根県内の人口減少はしばらく続いていきます。自然減を止め、社会減を止めようとしても、今のトレンドが急に変わるわけではない、しばらく人口減少は進んでいきます。そういう中にあって、県内の高校教育をどうしていくのか、そのような課題も顕在化しつつあると認識をしております。

本日からご審議をお願いいたしますが、委員の皆様には、社会の変化、そして生徒のニー

ズの多様化などに対応した高校教育の在り方、そして生徒数の減少などにも対応できる高校の在り方についてご検討いただきたいと思います。幅広い視点から自由闊達なご議論をいただきたいと思います。

昨日、教育委員会会議を開催いたしました。この問題についても協議を行い、本日から検討委員会の議論が始まることを報告したところでございます。教育委員の総意として、次のようなことがございましたので、ぜひ皆様にもお伝えをしておきたいと思っております。今後のご議論でございますが、結論ありき、再編ありきではない、そのような誤解が決して生じないように、丁寧に検討プロセスを進めていただきたいということでありました。そしてまた、その検討プロセスを県民の皆様へ公開をするということを通じまして、できるだけ多くの県民の皆さんに関心を持っていただきながら、適切な方向性を見出していいただければと、そのような強い期待を教育委員の皆さんが寄せておられることをお伝えさせていただきたいと思っております。この検討委員会におきまして、ふるさと島根の将来を担う高校生が、魅力を感じ、そして生き活きと勉学、部活動などに励み、そしてそれぞれの個性と可能性を伸ばしていくことができる、そういう島根ならではの高校の将来像、島根の将来を担っていくのは若い世代なわけですから、若い世代のためにも、島根ならではの高校の将来像を示していただきたいと、そのことを重ねてお願いを申し上げまして、開会に当たりましての私からのご挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお願い申し上げます。

2 検討委員会設置要綱の説明

〔事務局から説明：「今後の県立高校の在り方検討委員会設置要綱」〕

3 検討委員会委員自己紹介

〔委員自己紹介：委員名簿順〕

〔教育委員会事務局紹介：席次順〕

4 会長・副会長の選出

会 長 肥後功一 島根大学大学院教育学研究科教授

副会長 安部 隆 島根県町村教育長会会長

5 会長・副会長あいさつ

○肥後会長

先ほど自己紹介させていただきましたが、会長という司会の役を仰せつかりましたので、一生懸命やりたいと思います。

先般、地域の学校を魅力化することで地域おこしをするプロジェクトを大学に立ち上げ、そのプロジェクトを進めていく人材を育成するために、社会人対象のコースを設置しました。受講希望者が集まるかどうか不安だったのですが、開けてみると募集の2倍の応募が全国からあり、学校を柱とした地域活性化という切り口に多くの関心が寄せられていることを実感しました。記念すべき開講式に文部科学省の前川喜平文部科学審議官にお越しをいただきまして、特別講義をいただきました。島根県教育委員会からも、鴨木教育長さん始め方々にご参加いただきました。

せっかくの機会でしたので、前川審議官にこれからの国の教育がめざしている人材育成について、お尋ねしました。これから高校教育において重視しようとしている力を、大学教育でもこれを引き継いで育成していく、そのような高大接続に取り組むようにという国の方針は出ているのですが、その辺りの改革の勢いがどのくらいの感じなのかということ、大学人として知りたくて話を伺いました。学力も大事だけれども、今から何が起るかわからないような時代に、自分で目的を持ち、意欲を持って学び続けるという人材像、それを地域からどう育てていくかということについて、本気の教育改革を考えておられるということが強く心に残りました。もちろん小学校、中学校の過程があつてのことですが、前川審議官は高校教育の改革について非常に強くおっしゃっていたことが印象に残りました。この4月に立ち上げた島根大学の教職大学院も、義務教育課程の先生方を中心に考えたわけですが、開けてみると、高校の先生が2人もエントリーしておられました。高校教育の改革への必要性が、現場では真剣に模索され始めていることを感じさせられ、大学側の意識を変えていく必要性も感じているところです。

こうした在り方検討会では、どうしても、子供の数が減ってきた、地域に学校を残すべきか、統合すべきかといった、そういう観点からだけの議論が行われがちになりますけれども、決してそのようなことでなく、将来に向かって、ふるさと島根を愛し、そして世界を志すという人材がここから育っていくためのいい教育について議論を皆さんとともにしていきたいと考えているところです。どうぞよろしくお願いいたします。

○安部副会長

（今後の県立高校の在り方検討委員会設置要綱第4条第）3項には、会長に事故あるときはその職務を代行するとなっておりますけど、ここで皆さんと一緒に、会長に事故のないように願っていききたいと思います。よろしくお願いします。

6 議 事

【議題1 「今後の県立高校の在り方検討委員会」について】

〔資料2「今後の県立高校の在り方検討委員会について」事務局より説明〕

○委員

この検討事項に並べられている（1）江津市要望を踏まえた江津市エリアの県立高校の可能性、（2）浜田市要望を踏まえた浜田市エリアの県立高校の可能性、（3）平成31年度以降の次期計画（県立高校再編成基本計画）に向けた県立高校の在り方、この中で本来検討すべきは、（3）である。（1）、（2）は現計画の中でどうするかという扱いである。31年度以降について、今から新しい基準なり考え方をここで検討するわけだが、そこまで待って実施するのか、あるいはそれ以前に現計画の中で実施するという気持ちがあるのか。

○肥後会長

方向性の意見をこの委員会から具申するということなので、我々がどう申し上げるかにもよるが、それを受けて県がどうされるかという問題とは別である。

○委員

今回、なぜ江津市と浜田市についてのみ、このように出てきたのかももう少し詳しく教えていただきたい。

○事務局

現在の基本計画における統廃合基準に抵触する学校が江津市と浜田市にあり、そのため江津市と浜田市それぞれにおいて検討委員会が設置され、要望が出てきたところ。本来、現計画の中にあるものなので、次期再編計画の検討委員会とは別個のものであるが、せっかく県下から有識者にお集まりいただいているので、オープンな場で県民に関心を持っていただきながら、じっくり丁寧に議論をしていただくほうが最善であると考え、この両市エリアの可能性についてご検討いただきたいとお願いしているところである。

【議題2 県立高校をめぐる状況について】

〔資料3～6を事務局より説明〕

○委員

10ページ、2番の中学校卒業者の進路状況のグラフのところで、その他0.5%とあるが、どのような内容かお聞きしたい。

○事務局

その他は、進学も就職もされていない方です。

○委員

12ページ6番の中途退学者の推移で、説明では島根県は全国平均を下回っているということで、割とさりと説明いただいたが、身近なところでは最近増えてきていると私自身は感じている。中途退学者とその後に出てきた定時制や通信制課程と関連して、周りの保護者の皆様からいろいろなご意見とかお話を聞く機会が多い。このあたりはまた今後詳しく教えていただきたい。

○肥後会長

中途退学者に限らず、進学する方、進学しても途中で退学する方も含めて、その後の状況についてももう少し詳しいデータがあればというご指摘だと思う。具体的な状況、例えば県内にいるのか、県外に行ったのかというようなことを少しフォローしていただければと思う。

○委員

資料の3ページ、県立高等学校再編成基本計画の概要3番実施計画策定①のところに書いてある内容は、その前の平成11年から平成20年までの前計画と比較しての説明だったと思う。27ページに前計画と現計画での再編の違いが出ているが、現計画を策定した段階では、前計画よりもダイナミックに再編をしなければいけないということで、5年スパンよりもっと細かいスパンで再編成があるのではないかというニュアンスが、少なくともこの文章から読み取れる。そのようなことができているのかどうか、教育委員会の見解を聞きたい。

○事務局

いま一度、前計画、平成11年から20年度の計画について説明する。前計画は、前期、後期に分けて策定した。現計画と比べると、実際に具体の高校名を例示しながら、その方向性を示してきた。その後、平成21年からの現計画については、個別の高校名を上げることなく、統廃合基準を示しながら、それに抵触した場合に検討に着手し、その着手する時期の状況等を踏まえながら、あるいは地域の意見を聞きながら策定していくと考えてきた。

○肥後会長

現計画では具体名を上げていないところが一つの重要なポイントで、こういった問題が機械的に処理していける性質のものではないという意味で、現計画は一定の基準は示しながらも、シンプルな議論にならないように考慮したものとなっている。前計画と現計画では、設置理念とか、基本方針の理念が少し違っていると思う。この委員会では、そのあたりをどう考えるかということも一つの大きな議論の柱であると思う。現計画が、個別の案件をきちんと議論するという方向性に基づき作られているのかという確認であれば、そのとおりだと思う。事務局で補足することがあればお願いする。

○事務局

前計画の前半部はかなり具体的に、どこの学校はいつ学級減になると予測されるというような書き方をしていた。前計画の後半部分、平成16年から20年度については、何も書いてなかったわけではなくて、概略、方向性のようなものが若干抽象的に書かれていた。それをより具体的に書いたのが後期再編成計画で、そこで後半部分の具体的な計画を記載した。たまたま、前計画の前半部分では、統廃合が計画の中になかったが、後半部分のところでは幾つか出てきた。それが益田翔陽高校、島根中央高校という形での統合だった。27ページの上段をいわゆる統廃合という観点で見ると、現計画の中では何もしていないかのように見えるが、実際は浜田高校今市分校、大社高校佐田分校の募集停止、この2つを統廃合として実施している。個別に検討し、地元のご意見も伺いながら、この2校は最終的に募集停止となった。それ以外については、さまざまな個別の事情を見て、現時点では統廃合といった、具体的な動きにはなっていない。

○委員

現行の高校の配置状況が17ページ以降に出ている。この区分けとして、都市部と離島・中山間部ということで分類されているが、離島・中山間部は町村、その他を都市部という区分けになっているのか。都市部というと違和感のある地区もある。最初の検討課題の例にある都市部と中山間地域の高校の在り方について議論をするときに、その区分けがどうかという感じがする。教育委員会の中でそういう区分けが存在しているのか、便宜的にこのように分けているのか、その点を教えていただきたい。

○肥後会長

資料の14ページの11番の県立高校の卒業者の進路状況について、都市部、離島・中山間部という分類になっている。1校1校高校を並べても、そんなに数はないので、色分けでざっと示しても良いのではないかと思います。これは示し方の問題で、固定化した分類で議論してい

こうということではなく、案件に応じていろいろな分類の仕方を柔軟にしていけるものと思うがどうか。

○事務局

現計画では、沿線部、離島・中山間地域という言葉を用いているが、この離島・中山間地域という言葉を使うと、松江市、出雲市などの一部にも中山間地域に分類されるところがある。誤解のないように、今回は松江市、出雲市、大田市などの市部を都市部、町村部を離島・中山間部と整理をさせていただいた。なお、資料の提示の仕方については、いろいろな出し方等あるかと思うので、皆様の意見に基づき提供していきたい。

○委員

28ページで、定員数に応じて教員数を算出するという説明があった。例えば定員数が減らされて教員が減った場合に、隠岐のような小さな学校だと、恐らく教科をどこか削らないといけないといった問題が出てくると思う。その場合、例えば、町村の中学校の先生が高校へ行くなど、そのような柔軟な対応ができるか。

○肥後会長

この委員会での大きな議論にかかわるところである。定員減が即教員数の減少につながっていくので、学校規模が小さくなっていくと教育の質そのものが低下してしまう。それを食い止めるための一定程度の統廃合は必要じゃないかという議論にも結びついていくような、そういうベースになるところだが、ある程度の弾力化みたいなことが可能なのか。それから実際に、必要な先生を義務教育学校などから補充するようなことはやっているかといった質問だが、事務局から現状について説明願いたい。

○事務局

小・中学校の教員が高等学校でも教えることが可能かどうか、これは法律的にできない。私どももいろいろ研究はしてみたが、結果的にそれはできない。高校の教員が小・中学校へ行行って兼務するということもできない。ただ、県立同士ではそれがあがる程度可能になる。例えば、隠岐養護学校に籍を置く教員が、兼務で隠岐高校へ行行って音楽を教えるという形はとっている。また高校同士で、矢上高校に勤める美術の教員が、兼務で島根中央高校に行行って教えるといった工夫は、数年前から始めている。全国的にも割と珍しいやり方だと思う。それから1学年2学級とか1学級になると、例えば理科において、生物、化学は配置できるけど物理の教員が配置できないといったことが生じる。そのような場合には何とか、財政事情は厳しいが、理科の教員を1人プラスでつけるとか、場合によっては、非常勤講師を配置するという形で、離島・中山間地の学校については配慮している。

○肥後会長

そのようなこともあって、全国的には中等教育学校、中高一貫教育学校などの工夫がされている。だからといって急にそうなるかどうかかわからないが、検討すべきテクニックも幾つかあるので、今後こういったことも議論になるかもしれない。

○委員

13ページに特別な支援を必要とする児童生徒の割合が、平成23年度から27年度にかけて提示されている。コーディネーター等の配置が他県に比べてどういう状況にあるかということと、入試制度が少し変わって、支援が入ると伺っているが、現状の授業の中で子供たちがどのように支援を受け、学習できているかということ、それからこのことについても他県と比較した状況が分かればありがたい。隠岐のような小さな高校もこのようなことを特色として打ち出せるといいと思っている。

○肥後会長

高校における特別支援教育については、次回、改めてデータを出していただくほうがいいと思う。

○委員

設置要綱の第1条に、社会の変化や生徒のニーズの多様化等に対応した島根県の高校づくりと謳っている。これからの世の中がどうなるか、大方の我々の共通項みたいなものを持っただけからなければ、バックキャストで島根県の教育はこうしないといけないという発想が生まれないと思う。少なくともある程度オーソライズされている中教審の答申とか、システム改革会議の答申の前段のところに、これから世の中こう変わっていくから、こういう教育改革が必要なのだということが謳ってあるので、そのあたりは共通に認識しておく必要があると思う。

○肥後会長

会全体での議論をしていくときに、基礎資料として私たちがちゃんと読んでおくべきものがあるのではないかと、今後求められる高校の教育像とはどういうものであるか、ベースのものを少し共有して議論したほうがいいとのご指摘だと思う。事務局に代表的なものを整理してもらって、それを読んでもらうことを次回までの宿題にしてくださいということなので、皆さん方のほうからも、これを読んだらおもしろいのではないかといいものを出していただいて、それを踏まえて議論をしていきたいと思う。

○委員

22ページに学科について出ているが、いわゆる学科の設定と子供たちのニーズのバランス

がとれているのか。例えば商業科でいうと情報処理を勉強したいという子供がいたときに、エリアが限られることになるが、そのようなニーズと設置のバランスは現状どうなのか。

○肥後会長

これこそデータをお示しいただかなければいけない話の代表的なものだ。子供の学習欲求、学習志向性、意欲とか、こんなことをやってみたいという気持ちについて、県はどのように把握しているかというお尋ねでもある。ただ、それに応じて無制限にお金がある話でもない。このぐらいのところに一定程度のニーズを満たせるようなものを作っていきます。ということが必要になる。それから、子供たちの志向性だけではなくて、いわゆる時代のニーズもあって、この時代、次の時代に向けて、子供たちが何を学んでいくべきかという議論も当然あると思う。今の子供たちあるいはその地域にどういう学習の志向性があるのかをどのように把握しているか。これはデータがあればお示しいただきたいと思うし、非常に重要な観点かと思う。

○委員

14ページの進路の状況で、県内、県外の割合とか、もうちょっと詳しく教えていただきたい。島根の状況は、全国の状況とは違うだろうと思うところもある。もう少し島根の教育の全国との対比、相対化した中での島根の教育の位置づけというものを整理していただきたい。社会の中における高校ということを考えていかないといけなくて、大学が大きくドラスチックに改革している中で、大学改革についての資料もいただきたい。そのことなしでは高校についても語れないと思う。あと、魅力化の取組については今後また説明いただけるか。

○肥後会長

一つはデータの示し方で、データの読み方は幾つかあるが、その辺りを踏まえて、比較値の出し方を検討していただければよろしいかと思う。

2点目は、この数年魅力化というキーワードのもと、特に離島・中山間地域の高校が取り組んでいるが、どういう成果を上げてきたかということについてのデータも出るのかということだが、それは当然ながら今後出てくると考えている。

大学改革については、今後大学がどういうところに焦点を当てて試験をやろうとしているのかを踏まえながら、どういう高校生を進学させていくのか、高校3年間の学習をどういうものにするべきか、その辺りは当然議論していくべきものだと思う。

【その他】

○事務局

委員会の議事録についてだが、次回の会議において、委員の皆様には議事録を配付するが、県教育委員会のホームページにて公開をしたいと考えている。なお、場合によっては、委員の皆様の発言内容について、趣旨を踏まえ、ある程度まとめさせていただくこともある。また公開する際には、委員の個人名は掲載しないこととしている。

○肥後会長

よろしいか。＜→委員同意＞

7 閉会あいさつ（片寄教育監）

本日は、大変長い時間ご議論いただきましてありがとうございました。肥後会長様にはスムーズな議事進行していただきましたこと感謝申し上げます。それから、委員の皆様方におかれましては、それぞれのお立場ごとにさまざまなご事情のある中、本日も集まりいただき、感謝申し上げます。また今後過密なスケジュールでご議論いただくことをお願いさせていただくこと、非常に心苦しく思いながらも、よろしくお願い致します。

本日の限られた時間ではございましたけれども、さまざまな意見を頂戴いたしまして、やはり広く皆様方のご意見をいただきながら、冒頭教育長の挨拶の中で申し上げました、本当の魅力的な教育、魅力的な学校の在り方とは何ぞやというところをしっかりとご議論いただけるものと確信した次第でございます。今後引き続きさまざまなお立場からご意見を頂戴いただきますようお願い申し上げまして、第1回の会合の閉会の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

8 閉会